

2018年1月 今月のトピック

『投信販売における顧客本位のファンド情報は どうあるべきか』

アナリスト 勝盛 政治

2018年1月17日作成

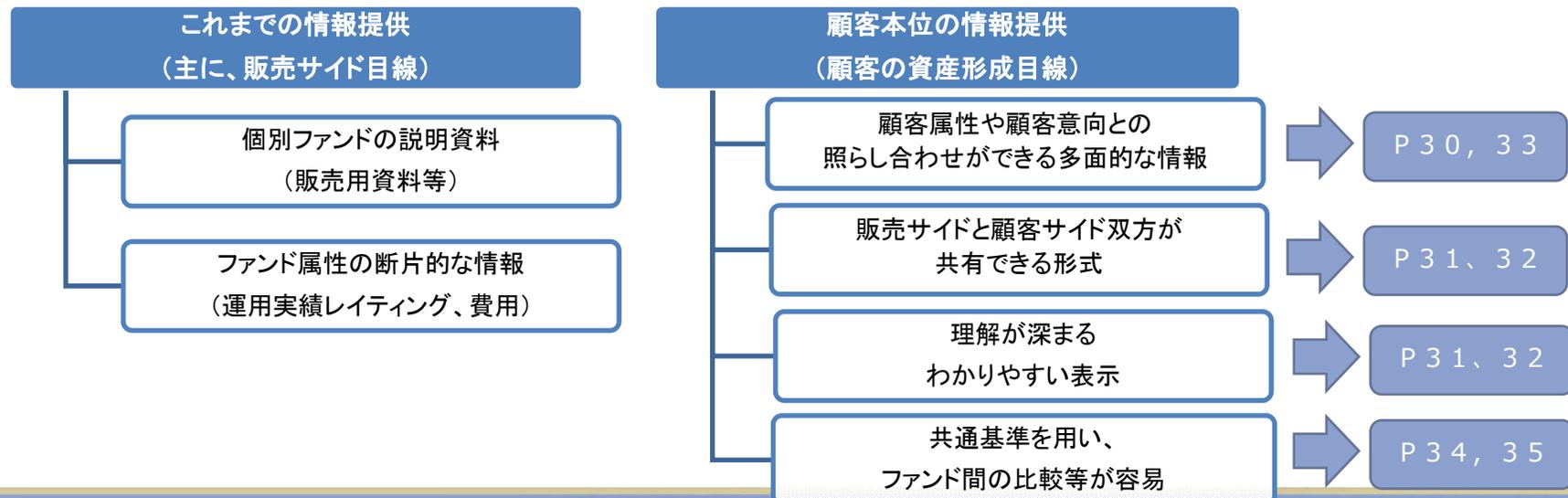
投信販売における顧客本位のファンド情報はどうかあるべきか

『ポイント』

- 顧客本位の業務運営において、顧客へのわかりやすい情報提供が求められている。この背景には、これまでは、リテラシーの低い個人に対して販売サイド目線による情報提供が行われていたとの課題認識がある。
- 顧客の資産形成に資するファンドの情報では、顧客属性や顧客意向に適った特徴を有しているファンドかどうかを、わかりやすい形で提供することが望まれる。
- 例えば、ファンドの特徴を「価格変動」「資産との連動性や分散度合い」「費用水準」「規模」や「運用期間」など、資産形成を考えるにあたって考慮すべき項目を見える化する。それらを同一基準で、顧客にもわかりやすいレイティング形式で一覧表示すれば、販売サイドと顧客双方の情報共有も進み、また、複数ファンドの比較なども容易になる。
- いままでの投信販売における情報提供は、販売サイド目線であるとか販売担当者の力量に頼っていたが、有効な提案ツールの活用や顧客目線の情報提供を活用することによって、より顧客本位のものになるだろう。

■顧客本位の投信販売に向けて必要な情報とは

- 顧客本位の業務運営において、「情報の非対称性の解消」として、わかりやすい情報提供が求められている。ここでは、顧客の資産形成に則したファンド提案にはどういった情報がどのように提供されるべきか、一つの方法を提示してみたい。
- これまでのファンドに関する情報提供の主なもの
 - ファンドの特徴が販売用資料や目論見書を用いて提供されてきた。
 - わかりやすいレーティングとしては、運用実績に基づき、特定の 카테고리内での良し悪しを★印などを用いた5段階によるレーティングが利用されている。
 - 最近では、ネット証券のHPにおいて、個々のファンドに関する費用や分配金の影響なども、見やすい形で提供され始めている。
- これらは顧客が資産形成を考えるにあたって十分な情報を網羅しているとは言い切れない。
- 顧客の資産形成という視点からファンドの情報提供を考える場合、顧客属性や顧客意向に適った特徴を有しているファンドなのか、多面的な情報をわかりやすい形で提供することが望まれる。



■顧客の資産形成を考える上でのファンドの情報1

- 顧客の資産形成に必要なファンドの情報を考える場合には、顧客のリスク許容度に則しているのか、顧客のリテラシーに適っているのかがポイントとなる。逆に言えば、リスク許容度やリテラシーに照らして過度な投資をして大きな市場変動などが発生した際には、顧客にとって想定外の損失が生じ、酷いケースでは信頼低下やクレームにも発展しかねない。
- また、長期の資産形成を目指す(投資スタンス)場合には、費用も重要な項目となる。運用実績も含め、これらの情報を把握し、顧客属性に則したファンド選択を考えることが望ましい。

●顧客の資産形成を考えるうえでの必要なファンドの情報1

<項目>	<顧客属性との関連>	<チェックポイント>
ファンドのリスク水準	顧客の許容リスクとの関連	顧客が受け入れられるリスク水準なのか
ファンドの複雑性	顧客のリテラシーとの関連	顧客が価格変動を理解できるファンドか
ファンドの分散度合い	顧客のリテラシーとの関連	顧客は想定外の価格変動を受け入れられるか
ファンドの費用水準	顧客の投資スタンス(投資期間)との関連	長期投資では費用水準の重要度は増す
ファンドのリターン(運用実績)	投資効率や運用実績の信頼性の確認	まっとうな運用成果を示しているのか

■わかりやすく表示するところに意味がある

- これらの情報は、個々のファンドに関して目論見書や運用報告書、月報を詳細に確認すればある程度は推察できるが、専門的な知識も必要になる。また、投資信託市場のなかで、どのような位置どこにあるのかについては、個々のファンドの情報だけでは確認できない。
- データベースを用い、これらの情報を5段階やインディケーター表示することにより、「一覧性を持ってファンドの特徴をわかりやすく表示できる」、「販売サイドと投資家サイドが情報を共有できる」、「他のファンドとも同一目線で比較できる」など、コンサルティングの利便性を高めることができる。

●ファンドの各情報を5段階で表示した例 <外国株式テーマ型ファンドA>

対象項目	具体的な情報	インディケーター(5分位)	説明等
リスク許容度	価格の動き		価格変動が大きいファンドは期待リターンも大きい。
リテラシー	資産内のリターンの連動性		連動性が高いファンドは初心者向き。
リテラシー	分散度合い 資産 通貨 国・地域		分散度合いが高いファンドは初心者向き。
コスト	費用水準		長期投資では低費用の重要度が増す。
投資効率	リターン実績 長期 短期		投信全体、対象資産(カテゴリー)における位置どこを確認。

- これは、投信市場全体を母集団とせず、各金融機関の取扱いファンドを母集団として作成すれば、販売会社のラインアップにおける相対的なファンドの情報として提供することもできる。

■ 長期の資産形成を目指す「つみたてNISA」は、最もシンプルなパターンの1つ

- つみたてNISA制度の対象者として、投資初心者で長期の資産形成を行う人を想定していると言われている。それを顧客に適したファンドの情報に当てはめると、以下の条件になる。
 - (顧客意向にもよるが、) 価格変動は大きくても、高い投資成果が期待できる資産<リスク許容度>
 - 投資リテラシーが低い人(投資初心者)に向いているファンド<リテラシー>
 - 長期間の投資であるため費用水準は低い方が良く<費用水準>

● つみたてNISA向けに適したファンドの条件(□で囲んだ部分が該当)と、外国株式テーマ型ファンドAの比較

対象項目	具体的な情報	インディケータ(5分位)	説明等
リスク許容度	価格の動き		説明 価格変動が大きいファンドは期待リターンも大きい。
リテラシー	資産内のリターンの連動性		連動性が高いファンドは初心者向き。
リテラシー	分散度合い 資産 通貨 国・地域		分散度合いが高いファンドは初心者向き。
投資スタンス	費用水準		長期投資では低費用の重要度が増す。
投資効率	リターン実績 全体 資産内		投信全体、対象資産(カテゴリー)における位置ど ころを確認。

- このようにみると、金融庁がつみたてNISA向けとして株式を組み入れるファンドを基本とし、特定のインデックスをベンチマークとしたインデックス型ファンドを中心に据えることは、まさにこれらの条件を満たしている(この場合には、個別ファンドのリターン差異の重要度は低い)。

■顧客の資産形成を考える上でのファンドの情報2

- 顧客の投資意向は投資初心者による長期の資産形成だけではない。
- 例えば、「最近人気を博しているファンド」、「安定志向の運用を求める人」、「妥当な分配が行われているファンド」の中で、相対的に高い分配金が得られるファンドなど、想定される資産形成ニーズのパターンが幾つかある。こういった様々な顧客の意向に適うために、既に示したファンドの情報以外に、各種属性のなかで提供したほうがよい情報として、例えば以下の項目がある。

●顧客の資産形成を考えるうえでの必要なファンドの情報2

<項目>	<投資意向等との関連>	<チェックポイント>
ファンドの規模	運用の安定性、継続性との関連	広く支持されているファンドなのか
ファンドの歴史	運用の信頼性との関連	運用状況が確認できるファンドなのか
ファンドの資金流出入	ファンドの注目度との関連	人気を博しているファンドなのか
ファンドの分配金	分配期待や投資効率との関連	分配金の水準や妥当性はどうか

- 現在はデータ取得が難しいが、上記以外にも各ファンドの金利や配当などの利回り情報があれば、安定したインカムを得たい顧客へのニーズにも応えられよう。

■例1:「多くの人が支持、注目しているファンド」のチェックポイント

- いままでの項目を用いて、「多くの人が支持、注目しているファンド」を考える場合には、以下のように「投資効率(リターン実績)」、「安定性(ファンドの規模)」、「注目度(資金流入の動向)」を押されば、運用目的に適うファンド選択に近づく。
- 注目されているファンドの条件(□で囲んだ部分が該当)と、外国株式テーマ型ファンドAの比較

対象項目	具体的な情報	インディケーター(5分位)	説明等
リスク許容度	価格の動き	価格の安定 収益期待 [Progress bar with red dot]	説明 価格変動が大きいファンドは期待リターンも大きい。
リテラシー	資産内のリターンの運動性	高い運動性(パッシブ) 高いアクティブ性 [Progress bar with red dot]	運動性が高いファンドは初心者向き。
リテラシー	分散度合い 資産 通貨 国・地域	分散 集中 [Progress bars with green and blue dots]	分散度合いが高いファンドは初心者向き。
投資スタンス	費用水準	低費用(長期投資向き) 高費用 [Progress bar with red dot]	長期投資では低費用の重要度が増す。
投資効率	リターン実績 全体 資産内	低リターン 高リターン [Progress bars with blue and red dots]	投信全体、対象資産(カテゴリー)における位置ど ころを確認。
安定性	ファンドの規模	残高小さい 残高大きい [Progress bar with red dot]	広く支持されているファンド。
信頼性	ファンドの歴史	短い 長い [Progress bar with red dot]	設定後の経過年数をチェック。
注目度	資金流入の動向	資金流出 資金流入 [Progress bar with red dot]	資金流入動向から判断。
投資効率	分配金 分配利回 り 妥当性	分配重視 成長(複利効果)重視 [Progress bars with blue and red dots]	分配金の水準や妥当性を確認。

- 個々のファンドの情報として提供するだけでなく、データベースを備えておけば、逆に特定条件を指定することでファンドを検索することも可能になる。

■例2:「安定志向の人」のチェックポイント

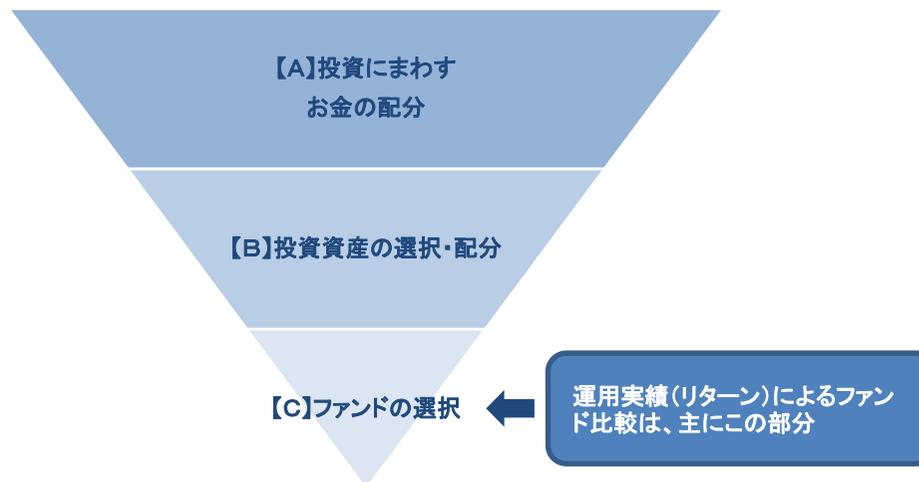
- 同様に「安定志向の人」には、以下のように「リスク許容度(価格の動き)」、「リテラシー(資産内のリターンの連動性)(分散度合い)」、「安定性(ファンドの規模)」を押さえながらファンドを選択するとよい。
- 安定志向のファンドの条件(□で囲んだ部分が該当)と、外国株式テーマ型ファンドAの比較

対象項目	具体的な情報	インディケーター(5分位)	説明等
リスク許容度	価格の動き		<p>説明</p> <p>価格変動が大きいファンドは期待リターンも大きい。</p>
リテラシー	資産内のリターンの連動性		<p>連動性が高いファンドは初心者向き。</p>
リテラシー	分散度合い 資産 通貨 国・地域		<p>分散度合いが高いファンドは初心者向き。</p>
投資スタンス	費用水準		<p>長期投資では低費用の重要度が増す。</p>
投資効率	リターン実績 全体 資産内		<p>投信全体、対象資産(カテゴリー)における位置ど ころを確認。</p>
安定性	ファンドの規模		<p>広く支持されているファンド。</p>
信頼性	ファンドの歴史		<p>設定後の経過年数をチェック。</p>
注目度	資金流入の動向		<p>資金流入動向から判断。</p>
投資効率	分配金 分配利回 り 妥当性		<p>分配金の水準や妥当性を確認。</p>

- 個々に条件を選択しなくても、「長期の資産形成向き」「注目されているファンド」「安定志向の運用」など、予め想定される幾つかの資産形成ニーズのパターンを設定しておく、さらに利便性が高まる。

■運用実績のレーティングは資産形成におけるファンド情報の一側面に過ぎない

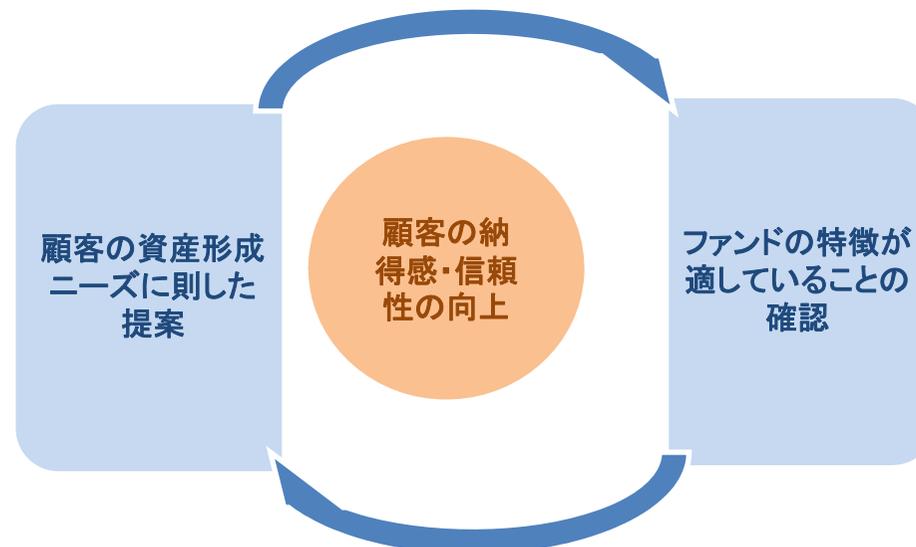
- いままで、投資信託のわかりやすい情報の代表格としては、☆印など5段階で示される運用実績レーティングのように、リターン面を重視したファンドの比較を行う傾向が強かった。しかし、それは全体の中の一部を示しているに過ぎない。その理由は以下による。
 - 資産形成で考慮すべきことは、【A】(非課税口座の活用も含めて)どのようにお金を配分するのか、【B】そのお金でどの資産に投資をするのか、【C】さらにどのファンドを選ぶのかの順序で重要度が決まってくるのであって、ファンドの比較はその最後の一部分でしかない。



- リターンはファンドを比較するうえでの一要素でしかなく、かつ、過去にリターンが良いからといって将来も安定して良いとは限らない。
- 資産形成においては、顧客の事情に適した情報を提供することが望まれ、特定カテゴリーにおけるファンドのリターン比較(リターンの追求)だけでなく、顧客の資産形成に則したファンド(個々の顧客に適った投資成果の確保)であるかどうか重要となる。

■将来的にはロボアドバイザーや販売支援ツールの機能補完・向上に

- 最近、活用が広がっているロボアドバイザーは、長期の資産形成を前提に、顧客のリスク許容度や投資意向を反映して、最適ポートフォリオやファンドを提案するタイプが主流。
- 優れた機能を有しているが、以下の課題も有している。
 - 多様な資産形成ニーズに対し、1つのパターンを取り上げているに過ぎない。
 - なぜそのファンドが選ばれたのか、説明が不十分であり、顧客の納得感は十分に満たされない。
- 投信の販売支援ツールにおいても、ファンドの選択、入れ替えや組合せ提案を行う際に、選択(候補)にあがったファンドがどのような特徴を有していて、顧客が求めるものに適合しているのか、わかりやすく示されたほうがよいだろう。
- これは、ファンドの比較サイト等においても同様のことが言える。



- 顧客の納得感を高めることは、資産形成への理解を深めるとともに、信頼性の向上に通じる。

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB300」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・勝盛・大野

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会